

【施策評価調査】

施策名	2-1-5	歯とからだの健康づくり	85	定期的に健康診査を受診し、身体の状態を把握します。 生活習慣病などの疾病について正しく理解します。 生活習慣を改善し、疾病を予防します。 ・健康であることの裏づけは、まず健康診査を受診し、経年の健康状況を確認することで生活習慣病の予防と、 疾病の早期発見による重症化を防ぐ。 ・メタボリックシンドロームの啓発と生活習慣病予備軍の把握を行い、個々の疾病改善のための支援を行なって いく。
	担当部課	住民生活部健康福祉課		
環境変化	平成20年度から、健診の基本健診部分及び保健指導が保険者単位となり、生活習慣病予備軍や疾患特定と改善のための支援プログラムの作成や自らの生活習慣の改善が求められることになった。従来のがん健診はこれまで同様に町単位で実施していくこととなる。			年代に応じた口腔ケアの指導を通じて、虫歯や歯周病の予防を促します。また健康診査の受診率アップをすすめ、健康診査後の結果を生かした生活習慣の改善につなげることで、町民全体の健康維持を図ります。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標 : 5～9歳のむし歯で医療機関を受診する割合(%)	H16国保疾病統計 0.5%	計画	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%
指標 : 基本健康診査受診者数(人)	H17基本健康診査受診人数 2,450人	計画	2,500人	2,550人	2,600人	2,650人	2,700人
指標 : 小学校1年生でむし歯がない児童の割合	H19学校保健統計 34.60%	計画			35.0%	35.5%	36.0%
指標 : 特定健診受診率	H203月高根沢町国民健康保険特定健診等実施計画書 30.00%	計画			30.0%	40.0%	50.0%
指標に関する特記事項	制度の変更により基本健診が特定健診となったため、指標 特定健診受診率を追加。指標 は平成19年度までの実績で終了。						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	42,486,998	38,897,000			
	決算	32,873,774	38,596,706			

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)		
健康診査事業費	当初 21,509,000	健康診査(特定健診・がん検診)受診実人員	A	健康診査の受診で、身体の状態を知ることができ、生活習慣改善のきっかけとなった。		
	決算 18,114,501	2944人 / 2,600人		<table border="1"> <tr> <td>今後の方向性(自己評価)</td> <td>継続</td> <td>今後の方向性(総合評価)</td> <td>統合</td> </tr> </table>	今後の方向性(自己評価)	継続
今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	統合			
生活習慣病予防事業費	当初 3,272,000	生活習慣病予防教室等への参加延べ人数	A	多くの人へ指導や援助することができ、正しい生活習慣について啓発ができた。		
	決算 3,109,746	4,338人 / 3,000人		<table border="1"> <tr> <td>今後の方向性(自己評価)</td> <td>継続</td> <td>今後の方向性(総合評価)</td> <td>継続</td> </tr> </table>	今後の方向性(自己評価)	継続
今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続			
フッ素塗布事業費	当初 387,000	参加延べ人数	A	小学生でのむし歯の保有率を減らすことができ、むし歯で受診する児を減らすことができた。		
	決算 384,204	506人 / 600人		<table border="1"> <tr> <td>今後の方向性(自己評価)</td> <td>継続</td> <td>今後の方向性(総合評価)</td> <td>統合</td> </tr> </table>	今後の方向性(自己評価)	継続
今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	統合			
特定健康診査・特定保健指導事業	当初 24,029,000	特定健診の受診人数	A	特定健診により身体の状態を知ることができ、その結果に基づく特定保健指導により生活習慣の重要性を認識してもらえた。		
	決算 5,831,396	1,593人 / 1,700人		<table border="1"> <tr> <td>今後の方向性(自己評価)</td> <td>継続</td> <td>今後の方向性(総合評価)</td> <td>継続</td> </tr> </table>	今後の方向性(自己評価)	継続
今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続			

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
■	特定健診に移行したことにより、がん検診の受診者が減少した。特定健診では、対象者が国保加入者とはっきりとしたので、通知や追跡がしやすくなったが、未受診者に対する動員までには至らなかった。保育園や学校を利用しより多くの人に指導を行った。またたかねビアでは普段関わりのない世代の人たちへも指導することができた。食生活改善団体では、積極的に住民への啓発に関わり、町の事業や独自の事業で活動を行った。これらのことで、昨年より広い対象へ啓発することができた。メタボ予備軍は男性が多かったが参加の割合が低かった。健診や教室でも男性の参加は少ない。	特定健診では国保加入者が対象であり、健康づくり事業では住民全体となるため、住民が混乱することになる十分な周知が必要である。特定健診は対象がはっきりし、健診を受診していない人の把握ができるようになるので、未受診者の追跡を行うことができる。25年度までの目標達成にむけて、計画的に動員を行う。健診や保健指導の効果を医療費の状況と比較することも出来るため、医療費の分析とともに施策の評価を行っていく。住民への啓発は行政だけでは限界があるので、食生活改善団体、ウォーキング会、保護者会など自ら活動する団体に働きかけ、それぞれの活動の中で啓発し、多くの住民に広めていく。
■	総合評価 積極的に施策展開されていることを評価する。 ただし、後期計画策定に向け、「2-1-1正しい食生活づくり」や「2-1-4たばこ・アルコール対策」の施策と関連があるので、独立した施策展開ではなく、生活習慣病予防対策の施策として一元化された施策展開を検討すること。 また、それに併せて施策指標も見直すこと。	